

# 新生児科

文責：福永 真之介

## 概要

2021年度は小児科医師6人で診療を行った。

## 診療

周産期母子医療センターには地域周産期母子医療センターと、より高次の医療を担う総合周産期母子医療センターとがある。当院は地域周産期母子医療センターの認定を受けており、NICU（新生児集中治療室）6床、GCU（継続保育室）6床を有している。

NICUでは、早産児や中等症以上の疾患に罹患した新生児に対して集中治療を行っている。GCUでは、NICUである程度大きくなった早産児や軽症の新生児に対して治療を行っている。

NICUおよびGCUを退院した児に対しては小児科外来で発達、発育のフォローアップを行っている。極低出生体重児を中心として、下関市こども発達センターと協力し修正1歳6ヵ月、3歳、6歳で知能検査を施行し長期予後の評価に役立てている。

近年出生数の減少により入院数も減少傾向にあったが2021年度の入院数は306人で、2020年度の304人と比較し横ばいだった。出生体重1500g未満の極低出生体重児（院内出生）は2020年度の5人から2021年度の3人に減少した。

当院では在胎週数25週～26週以上の児を入院対象とし、より未熟な児の出生が予想される場合は山口大学病院等の総合周産期母子医療センターに積極的に母体搬送する方針としている。母体搬送後に高次施設で出生し状態安定してから当院に逆搬送される症例が近年増加していたが、2020年度は1例、2021年度は2例と少なかった。

2021年度は死亡退院が1例あり、致死的な気道の先天奇形を有するお子さんだった。

### 2021年度 新生児入院症例

総入院数	306
院外出生	19
院内出生	287

### 在胎週数別入院数（逆搬送数、死亡数）

23週～27週	1 (0, 0)
28週～31週	2 (1, 0)
32週～35週	24 (0, 0)
36週以上	279 (1, 1)

### 出生体重別入院数（逆搬送数、死亡数）

～999g	1 (0, 0)
1000g～1499g	2 (0, 0)
1500g～1999g	18 (1, 0)
2000g～	285 (1, 1)

### 呼吸管理症例

人工呼吸管理	13
nasal DPAPのみ	8

### 治療実績

肺サーファクタント補充療法	12
動脈管開存症薬物治療	1
脳低温療法	0

### 検査実績（延べ件数）

心臓超音波検査	153
その他の超音波検査	112
頭部MRI検査	5
その他のMRI検査	0